自分の考えをもち、言葉で伝え合う児童の育成

校長　河　﨑　晃　二

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が、一時期と比べて随分と少なくなってきました。また、先日、練馬区教育委員会から１０月より通常授業を行う通知が出されました。これまで、午前５時間授業を行って参りましたが、大きな混乱もなく教育活動ができましたのも、ひとえに保護者や地域の方の御協力のお陰です。ありがとうございました。

今後も、感染症対策をしっかりと行いながら、教育活動を充実させていきます。遠足や音楽会等の取り組みもありますので、引き続き御協力をお願いいたします。

＊

学校だよりの表題の「自分の考えをもち、言葉で伝え合う児童の育成」は、今年度の開進第四小学校の研究主題です。昨年度は、コロナ禍で、研究授業を行うことができませんでしたが、今年度は、コロナ禍でも行える工夫をして研究に取り組みました。９月２２日（水）には、緊急事態宣言中だったので、授業の様子をビデオで撮影し、その映像を全教職員が見るという方法で、研究協議会を行いました。

その日行われた授業は、４年生の国語「ごんぎつね」で、４，５場面での「ごん」の気持ちを「マッピング」で表し、ペアトークをしながら学習を進めていきました。

マッピングで表すことで、文章で表すことが得意でない児童も、自分の考えを記録しペアトークに生かしていました。また、その後の全体での確認の活動も活発に行われました。自分の考えたことを相手に伝える力や友達の違った視点からの考えを受け入れる力をこの学習をとおして育てることをねらいとしています。

これからの教育では、知識や情報を「インプット」するだけでなく、「インプット」された知識や情報をもとに自分で考え、判断し、どのように「アウトプット」するかが重要なこととされています。なぜならば「アウトプット」することによって、まわりからの反応があり、人との関わりをもつようになるからです。

これらのことは、これまでも行っていましたが、今後様々な国の人と関わる機会が増える子供たちにとっては、必要なスキルとなります。どのように考えたら良いのか分からない子供には、「マッピング」の思考ツールが一つの手法となりました。しかし、それが全てではありません。他にも、様々な思考ツールがあります。学習を通して、いろいろな思考ツールを活用し、自分で考える楽しさと、その考えを相手に伝える楽しさが味わえるような授業をめざして、研究を積み重ねてきます。